

きゅうりの担い手の育成

■背景とねらい

当管内は、比較的温暖な気候を活かした果菜類の生産が盛んである。中でも主力品目であるきゅうりは、新規就農者の多くが経営品目に位置付けている。しかし、新規就農者の中には栽培技術の向上が必要な者が多い。

そのため、きゅうり栽培を開始して5年以内の新規就農者を対象とし、定期的な巡回や研修会・情報交換会の開催、技術情報の提供等の活動を通じて、きゅうりの担い手への支援を行った。

■本年度の取組と成果

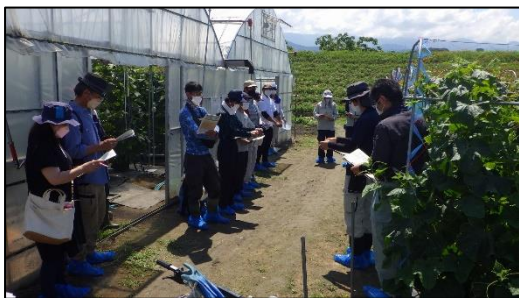
1 重点対象者への巡回

きゅうり栽培を始めて5年以内の栽培者から8名を選定し、4月から10月まで、月に1回以上巡回指導した。4月には課題と目標を設定し、その解決と達成に向けて取り組んだ。

重点対象者への支援により、8名のうち6名は実績単収が目標単収を上回る結果となった。

2 南信州きゅうり青空教室の開催

7月7日に「夏季の栽培管理のポイントと農薬散布の再点検」をテーマとし、生産者のほ場で開催した。参加した15名の新規栽培者からは、実際の防除の様子や薬剤の付着状況がよく分かったといった評価が聞かれた。



きゅうり青空教室の様子

3 きゅうり新規栽培者情報交換会の開催

今年度のきゅうりの作柄を振り返り、次年度へ向けた課題や目標を明確にすることを目的に、2月3日に開催した。新規栽培者及び研修生20名が参加し、今年度の栽培反省や収量最大化・作業効

率化に向けた取り組みの検討を行い、JA等関係機関からの情報提供を行った。グループワークによる意見交換では、参加者同士の対話を通じて多くの気づきがあり、今後の栽培に向けモチベーションを向上させる機会にもなった。



きゅうり新規栽培者情報交換会の様子

4 選果作業のカイゼン及び防除効果の確認

4名の新規栽培者を対象にし、感水紙を用いた薬剤付着程度を確認するとともに、発病度調査を行い防除の改善に繋げた。自走式防除機の効果が優れていることを確認し、情報提供した。

また新規栽培者と熟練者の選果工程について収録した画像分析に基づき、選果作業場のレイアウトの変更を提案した。なおこれらの結果は、2月3日の情報交換会等で情報提供を行った（調査研究課題実績書参照）。

5 技術情報の提供

きゅうり栽培管理、病虫害防除、施肥、気象経過、価格動向をまとめた「きゅうりニュース」を4月から10月まで毎月発刊し、技術指導資料として重点対象者に配付した。

重点対象者からは分かりやすいと好評であり、JA技術員とも共有し技術資料として活用している。

■今後の課題と対応

重点対象者の中には排水不良による病害の発生や、作業時間の確保が課題となっている方がいる。

重点対象者全員が収量目標を達成できるように、今後も引き続き関係機関と連携し、巡回や研修会の開催、情報発信等の継続した支援を行っていく。

(技術経営係：片桐 直樹)